

道路防災講演会



毎年8月は「道路ふれあい月間」です。そのなかで25日から31日までの1週間は「道路防災週間」として、道路防災意識の啓発普及活動の行事が実施されています。11回目を数える今回も、道路関係者の防災意識の向上などを目的に講演会が開催されました。

日時 平成14年8月27日(火) 13時30分～16時30分
 会場 札幌ガーデンパレス
 主催 北海道開発局、北海道、札幌市、日本道路公団北海道支社
 共催 (財)北海道道路管理技術センター、道路防災エキスパート事務局
 後援 朝日新聞北海道支社、北海道新聞社、毎日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社

「道路防災週間」の行事の一環として、去る8月27日(火)、札幌ガーデンパレスにおいて「道路防災講演会」が開催され、行政機関や民間の技術者など約450人が参加し熱心に耳を傾けました。

当日は、北海道開発局建設部長竹田俊明氏の開会挨拶に引き続き、北海道立地質研究所地域地質部表層地質科長の田近淳氏が「北海道の活断層」をテーマに専門的な立場から1時間にわたり講演。阪神淡路大震災の教訓から、道内でも活断層が目されるようになり、平成7年から北海道によって活断層調査研究事業がスタートしています。「北海道の活断層の多くは数千年から1万年に1回程度動いてきました。これまでの調査ではほとんどがいつ活動してもおかしくない状態にあると言えます。」



北海道立地質研究所地域地質部表層地質科長

田近 淳

(たちか じゅん)

1954年(昭和29年)秋田県生まれ。北海道大学理学部卒業後、同大学院理学研究科へ進学し、94年に博士号を取得。99年から現職。著書に「北海道の地すべり地形一分布図とその解説」(共著・北海道大学図書刊行会)ほか。



富士常葉大学環境防災学部教授

吉村 秀實

(よしむら ひでみ)

1941年(昭和16年)東京都生まれ。63年早稲田大学教育学部を卒業し日本放送協会(NHK)に入局。数多くの災害現場を担当。00年から現職。著書に「ニュースのことば」(共著・日本出版協会)ほか。

と述べ、会場ではメモを取る姿も見られました。

また、NHK時代、北海道南西沖地震や雲仙普賢岳の火山噴火災害の取材にもたずさわった経験のある吉村秀實富士常葉大学環境防災学部教授が、「21世紀・人にやさしい時代の道づくり」と題して熱弁。第1次交通戦争の話に始まり、現代は情報が人の生死を分ける時代であることを強調し、「脱・常識の防災対策を」という内容で結び、バラエティに富んだ講演を行いました。

北海道建設部長の代理として、道路整備課長の阿部志郎氏が閉会の挨拶を務め、盛況のうちに閉幕。防災の意識を高めることの重要性をそれぞれがあらためて認識し、実り多い講演会となりました。